

こども未来共創フォーラム 基調講演

2023.11.12 日曜日 13:00 於:宇部市多世代ふれあいセンター ふれあいホール

司会

これより基調講演を始めさせていただきます。本日のメインテーマ、「困難な状況に置かれた子どもたちへ。今私たちができること」につきまして、東京や宮城で教育支援、居場所支援を行っております認定 NPO 法人キッズドア理事長並びに一般社団法人全国子どもの貧困教育支援団体協議会副代表理事他、様々な方面で活動されております渡辺由美子様より、地域の担い手がどのように関わって、子どもたちを包括的に支援できるかという観点から渡辺様からお話をいただきます。それでは渡辺様よろしくお願いたします。

渡辺由美子



改めて、認定 NPO 法人キッズドアという日本の子どもの貧困を解決するために活動している団体の渡辺です。今日は、宇部市にお呼びいただきましてありがとうございます。通過したことはあるけれど、滞在としては初めてですので、本当に素敵なお話だと思いつつ、昨日から入らせていただいております。今日は少し皆さんと地域の中でどういことができるのかということと一緒に考える、ヒントになるようなお話ができればと思っております。遠くから来てくださった方もいらっしゃるということで、少しでもお役に立てればと思っております。

KIDS DOOR
認定NPOキッズドア

Copyright © 2022,3 NPO KidsDoor

わたしたちキッズドアは、貧困に苦しむ日本の子どもたちの社会へのドアを開けるべく、多くの大学生・社会人ボランティアと共に、子どもの教育支援に特化した活動を展開しています。


団体概要
認定NPO法人キッズドア
<http://www.kidsdoor.net>

理事長 渡辺由美子 プロフィール

2007年任意団体キッズドアを立ち上げる。
2009年特定非営利活動法人キッズドアを設立。
内閣府子ども家庭庁子ども家庭審議会子どもの貧困対策・ひとり家庭支援部会臨時委員
内閣府子どもの未来応援国民運動発起人
厚生労働省生活困窮者自立支援及び生活保護部会委員
全国子どもの貧困・教育支援団体協議会副幹事
著書: 子どもの貧困 未来へつなぐためにできること (水曜社/2018年5月)



すべての子どもが
夢や希望を持てる社会へ



簡単にキッズドアの活動のご紹介をいたします。2007年に任意団体で立ち上げました。何故、どのようにして立ち上げたのかという話は後でしたいと思います。私も最初は手弁当です。少しボランティア活動みたいなことでやっていたのですが、ちゃんとやった方がいいなということで、NPO 法人という法人格にしたのが 2009 年です。2009 年は、厚生労働省が初めて日本の相対的貧困率というのを出した年であります。子どもの貧困率というのも、日本の中で初めて正式に測られました。

逆に申し上げますと、日本で子どもの貧困があるっていうことを、それまでは国として把握をしていなかった。だから何のその対策もなかったということです。やはり 1 億総中流で、日本人はみんな豊かで、日本の子どもは家庭の中で良い教育を受けて、しっかりとご飯を食べて育てているのだと思われていたが、実は、このとき出したとき、子どもの貧困率は、今よりもだいぶ高く、15.7%という非常に高い相対的貧困率でこれは大変だということでした。その後、例えば、高校の無償

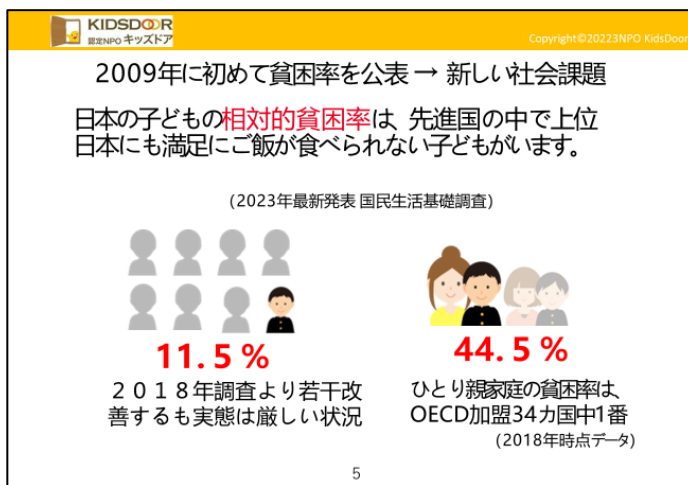
化とか、給付型の奨学金みたいなこともできました。いろんなことが進んではいるのですが、日本として子どもの貧困ということに取り組んだのは最近ということです。



2020年には、天皇皇后両陛下にお会いする機会がございました。2020年というのは、天皇皇后両陛下が即位をされた翌年です。コロナウィルスが感染拡大している時で、子どもたちのためにということで内閣府が実施している「こどもの未来応援基金」へ、両陛下が5000万円のご下賜金を託されました。その基金からの支援で活動させていただきました。写真に写っている白いスーツは、私です。両陛下とも本当に子どもたちのことを、すごく心配されていて、コロナで、どこにも外出できないこと、貧困家庭のお子さんとはとても狭いアパートに住んで本当に苦し

い、そういう事情などをお聞きいただいたりしました。

政府も今すごく取り組んでいらっしゃるって、昨年10月には岸田総理、内閣府特命担当大臣の小倉大臣(当時)に、車座対話でお話をさせていただきました。

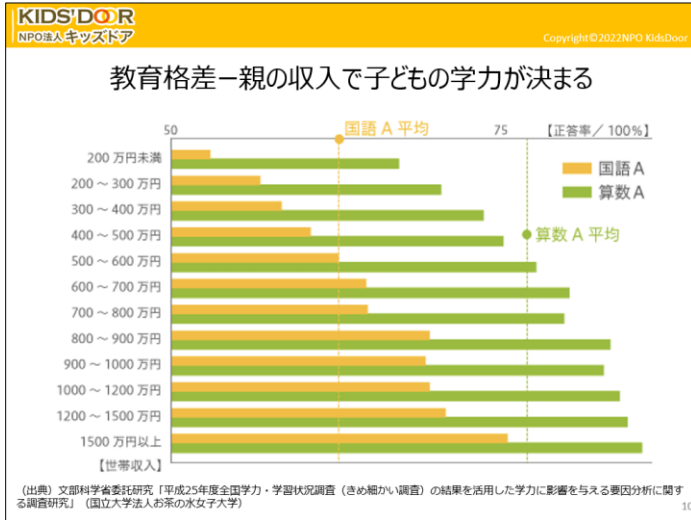


日本の子どもの貧困について少しだけお話させていただきます。

日本の子どもの貧困率は、相対的貧困率で測ります。もう一つあるのが絶対的貧困率です。いわゆる開発途上国で、アジア、アフリカとかで本当に食べるものもない、医療にアクセスできなくてお子さんがどんどん死んでしまうとか、そういうのが絶対的貧困で、この問題も大変です。一方、先進国の中でも、格差の中で困っている子どもがいます。それは相対的貧困という尺度で世界共通で測ります。どうやって測るかという、その国の国民の所得を、一番低い方

0円から高い方まで、並べ、中央値という、その真ん中の値をとって、その半額未満で暮らす方たちを相対的貧困とする、そういう尺度としています。平均を取ると、すごく所得が高い方がいらっしゃるの、高めになってしまいます。

日本の最新の2021年の調査でいくと11.5%ということで、およそ9人に1人が相対的貧困にあります。大体どれぐらいの金額でやっているかという、母子家庭で、例えば、お母さんと子ども1人でいうと、年間の総所得で、働いている就労収入があつて、そこから税金、社会保障とかいろいろ引かれて、手当も入って、総所得が180万円未満の方たちです。多くの方は、そこから、家賃、食費を払って、教育を受けさせてということです。180万円未満というと、皆さん180万円あるならまあまああかなと思われ



OECD の加盟国の中でも一番悪い。日本がひとり親の貧困率ではダントツで高いという状況です。

こういうことを言うと、例えば、ひとり親の方は、子どもがいるから働いてないのでしょうかとか、貧困な方たちってちょっと怠けていらっしゃるのか、そういう「貧困怠け者論」とか、バッシングみたいなことがあります。実は全くそうではないのです。

貧困 ≠ 怠け者

- 日本のひとり親世帯の就労率は先進国 1 位
母子家庭の就労率 80.6% は働いている
- 日本のひとり親世帯の相対的貧困率も先進国 1 位

世界一働いているのに、世界一貧困なのが日本のひとり親
世界一のワーキングプア

男女の賃金格差・養育費の払ってもらえない・正規雇用になれないetc

子どもの貧困は自己責任ではなく社会構造の欠陥

かもしれないのですが、そうではなくて貧困層の中では、その 180 万がトップ、一番多い額なわけです。

私どもは、東京で活動しているのですが、どれぐらいでやっているのですかとお聞きするのですが、月 10 万ぐらいと回答があり、どうやって生活しているのだろうかと思います。本当に厳しい状況でやっています。

もう一つが、ひとり親家庭の貧困率ということで、日本はこれが非常に高いです。44.5%ということで、ひとり親は、9 割ぐらいが母子家庭ですが、母子家庭の貧困というのは非常に高く、

例えば、日本のひとり親世帯の就労率というのは先進国の中で一番です。母子世帯では 80.6%、8 割以上が働いています。働いていない 2 割の方はどういう方かというと、私たちが学習支援している中でも、そういう方がいらっしゃいますが、例えば、働きすぎて体を壊してしまって、どうにも働けない方になっている、実は車椅子の生活になっているとか、ひとり親家庭なのですが白血病になって今入院しているのですとか、働けるのだけど、すごく重い障害のある兄弟の子どもがいるので、ケアをしなきゃいけないとか、そういう方々です。

就労率は高いが、相対的貧困率は最悪なのです。どういうことかという、世界で一番貧困なのが、日本のひとり親です。なぜかという、例えば日本ではやっぱシングルマザー、男女の賃金格差の問題だとか、子育て中の女性はどうしても、その補助的な仕事と見られがちなので正職員になれないとか、養育費の受け取り率も低い等いろいろあります。これはその方個人の問題ではなくて、社会の構造が日本の子どもの貧困っていうのを作っているということをぜひ皆様にご理解いただければと思います。

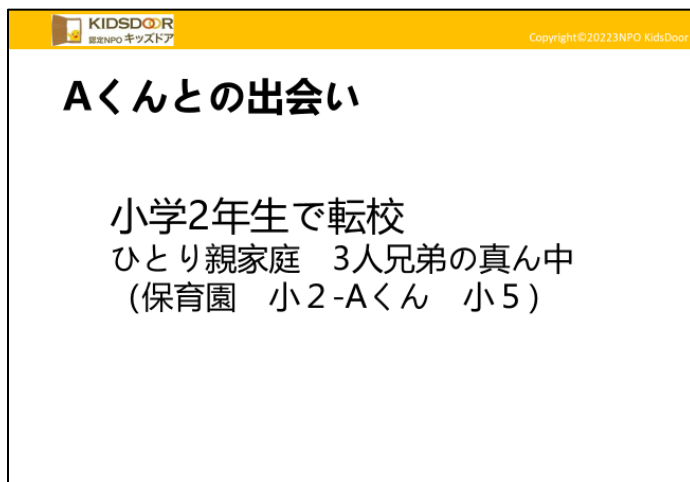
もう一つ、教育ということがすごく重要ということになりますが、教育格差という言葉が聞かれたことがありますか。何かというと、このスライドのグラフで言えば、縦軸が、世帯所得です。一番上が 200 万円未満、かなり所得が少ないお家で、一番下は 1500 万以上ですから、かなり裕福なお家です。横軸が国

語と算数のテストの正答率です。

これは、小学6年生の国語と算数の成績ですが、一目でわかりますよね。親の所得が高いと国語も算数も点数が良くて、親御さん所得が低いと定数が低いということが、綺麗に紐づいてしまっていて、おかしいわけですよ。

お金持ちの家にIQが高い子ばかり生まれるわけではないので、本来的にはこんなふうになってはいけないのだけれども、実態としてはこういうことが起こっている。結局、お金があまりないうちに生まれると、どうしても学力が高くないという現実が、今、日本で起こっていて、こういうことを無くしていかなければいけないと思っています。

様々な調査を実施していますが、今日、皆さんのお手元に、資料で「2023年夏の物価高騰に係る緊急アンケート」というのを入れています。例えば、これ本当に貧困家庭の方が物価高騰で、食品も、ご飯も、もう食べられない。大変という状況で、お時間あるときに読んでいただくと幸いです。涙が出るほどつらい状況なのですが、この調査のお話というより、今日は少し皆さんと気持ちを共有できたいなと思っています。



KIDSDOOR
児童NPOキッズドア
Copyright © 2023 NPO KidsDoor

Aくんとのお会い

小学2年生で転校
ひとり親家庭 3人兄弟の真ん中
(保育園 小2-Aくん 小5)

私がキッズドアを始めたきっかけですが、なぜ、渡辺さんキッズドアをやっているのですかと聞かれます。大学で福祉を学んだのですか、教育関連のお仕事をされたのですかとも聞かれるのですが、全然そんなことはなくて、実は工学部で、大学出てからも販売促進とマーケティングとかいかにもものを売るといった、当時日本で一番売っている百貨店に就職していたので、そういうことをやっており真逆なのです。大学のときにボランティア等は一切やっていないですし、本当に大きな声じゃ言えないのです。

こんな子がいるのだという気づきの、きっかけはA君です。私は、東京の江戸川区という下町の方で、少し、貧困率も高いようなエリアに、主人と結婚し住み始めたのですが、子どもが小学校に入った時の事です。

次男が、小学2年生の時に転校してきたお子さんが、同級生のA君です。こんな子が転校してきてみたいよ、みんなで、どんな子かしらって話していました。A君は、3人兄弟でひとり親だったのですが、保育園と小2のAくと小5のお兄ちゃんがいました。

3兄弟だと、後から判ったのですが、ママ友の間でちょっとA君って、少し乱暴みたいよとか、学校の中で先生に注意されて、ちょっと何かあったみたいとか、この間、うちの子がAくんを連れてきたのですが、夕方になっても、なかなか帰らないので、帰りなさいと言っても帰らないから、もう次からはA君は連れてきちゃ駄目って言ったから、渡辺さんも気をつけていた方がいいよと言われたのです。

その子はかわいいですが、お母さんは、全然学校に来ない。保護者会とか授業参観とか全然来ない。運動会も来られていなかったのではないかなというぐらい、A君のお母さん見たことがないねという話

になりました。でも、お子さんには罪もないし、元気そうで、幸い、うちの子どもは4月生まれで、体も大きかったので、ちょっと乱暴な事されても大丈夫だし、また今度、Aくんが遊んで欲しいといえば、連れて来ればということになっていて、Aくんがうちに来るわけです。

楽しそうに遊んでいます。そろそろ5時だから帰らなくていいのっていうと、うちはまだ大丈夫。そうなのって、もうちょっと遊んでいくかって、5時半くらいになって、もう5時半だから暗くなってくるし、帰った方が良くはないかと言っても、うちは大丈夫だからまだまだ平気だからって言って、お母さんが、心配するのではないのかと言ったら、お母さん帰ってくるのは7時過ぎるから、要はお母さんひとり親で働いてらっしゃるわけですね。

仕事が終わって保育園に迎えに行ったりだとか、お兄ちゃんとA君が迎えに行ったりとかしているらしいんですけど、とにかくお母さん帰ってくるのは7時なわけです。アパート帰ってもお兄ちゃんがいるかどうかもわかんないし、1人でそこにいなきゃいけないわけですよ。A君にとっては、アパートにいるよりは、うちの子と一緒に遊んでいた方が楽しいから、もうちょっと遊んでいく、となり、ちょっとお腹すいたから何か食べる？となって、おにぎりを食べると、とても喜んだりするわけです。

夏休みもどこにも行かない。うちは、旅行が好きで、子どもが小さいと安いからって夏休みに海外へ旅行したり、ディズニーランドいこうとかいろいろやるのです。

けれど、遊びに行く予定がない日になると、うちの子は、暇だ、暇だと言って、友だちを呼んでいいかと聞くわけです。

私も子どもの相手をするより、友だちと勝手に遊んでくれた方がいいから良いよって言って、声かけてAくんが来るのです。

するとAくんが、私に対して、「ねえねえ、渡辺くんのママ、僕はね。夏休みに、どこもいかないから、毎日暇だから、もし遊ぶときは必ず呼んでね」というのです。「ああそうなの。呼ぶね」と言って、さすが朝早くから夜まで1日だったら大変だから、「お昼は食べたなら来ていいよ」と言って、午後一杯ぐらい遊ばせたらいいだろうと思って、「わかった。じゃあね。また明日」と言ってその日は帰りました。それで翌日は、今日は子どもの遊び相手がいるからいいなと思っていると、11時頃に、ピンポンってドアが鳴るのです。なんだろうと思って行くと、A君が立っていて、「早いね。もうお昼ご飯も食べたの」と聞くと、「食べた」と言うのです。

でも、何かやはり家で1人だし、お母さんは働きに行っていますから、アパートいるよりも良いらしい。「そっかそっか、うちは食べてないから一緒にカップラーメンでも食べる？」とか聞いて、カップラーメン食べてから遊ぶわけです。こういう子がいるのだということも、私は初めて知るわけです。

もう一つすごく驚いたのが、そういう風にして仲良く友達になると、学校で落ち着くのです。すごくいい子になるのです。つい最近まで悪口を言っていたお母さんたちが、いや渡辺さんのお子さんはすごいわねって。渡辺さんのお子さんと遊ぶようになったらA君がものすごくいい子になったというのです。うちの子の影響じゃなくて、子どもは敏感だから、そういうふうに使われていると落ち着かないのです。1人でも2人でも信頼できる関係ができれば子どもも落ち着くのであって、私的にはどちらかというとなかなかいい子と思えばいい子になる、みたいに思うのですが、なかなかそうは言えません。そんなことがあって、やはり、そういうお子さんいるんだなっていうのは気がつきました。

小学校のPTA活動での出来事

旗当番ができないという保護者からの相談

私はひとり親で、パートで働いている。
下の子を保育園に預けて仕事に行かないと、
遅刻をするとクビになってしまうので、旗当番は免除してほしい。
他にできることがあれば協力したい

もう一つ私の中に衝撃的な出来事がありました。そのとき私は子育てがメインで仕事をフリーランスながらほとんどやってなかったので、時間はあるので、PTAの役員で書記をやっていたのです。

PTA活動で、「旗当番」というのは、宇部ではありませんか。東京だと子どもが小学校に行くときに危ないから、要所要所に親が立って、朝の見守りをする「旗当番」が年間で3回ぐらいあります。当番の方が旗をもって立つのですが、当番になっても来ないお母さんも当然います。この

方は素晴らしいお母さんだと私は思っているのですが、旗当番が回ってきたときに、わざわざそのPTAの本部にご連絡くださいました。私はひとり親で、本当に申し訳ないのですが、パートで働いていて、子どもを保育園に預けてから働きに行っている、旗当番をやっていると、遅刻になってしまうから、遅刻をすると下手したら仕事クビを切られるかもしれない。申し訳ないけど、旗当番はできないから、その他で何かできることがあればやるから、旗当番を免除してくれないかとわざわざ言ってきたのです。

私はそれを聞いて、「いいですよ、いいですよ、どうぞ、私は暇だから、いつでも変わりますよ」と言ったのですが、そうなるかと思いきや、PTAでは、いやちょっとそれを検討しましょうってなったのです。やはりPTAだから組織的に決めるのだ、検討するのだと思いました。会長とか副会長とか役員の人たちが話した結果、駄目となりました。びっくりしたのですが、いやいや働いている人は、他にもいっぱいいると。

みんな、お母さんが働いているから、この人だけ仕事で旗当番を免除したら、他の人もみんな免除って言うてくるから、やはり駄目。1回は1回と、どうにかしてもらいましょうということになって、本当にびっくりしました。PTAの皆さんは、素晴らしい人なのです。けれども、その人たちが、そういうふうに見えるのにかけていうのは本当に驚きです。

このお母さんは、首を切られるかもと言っているのですよと伝えただけで、何かそこには配慮がないのだなというのはすごく驚きました。

イギリスでの小学校体験

お金もかからず、親の負担もない小学校生活

入学時

「バックも、制服も 何も新しく買う必要はない。
家にあるもので十分です。」

1年間 公立小学校に通わせて、集金が1回もない

**出せる人で、出したい人はたくさん出す
出さない人は出さなくていい**

私は子どもを連れて1年間イギリスに住んだことがありました。ちょうどブレア首相が就任されて、篠崎市長と同じようにお子さんが5人いらっしゃいました。ものすごく子どもの政策に力を入れているときに行ったので、とても良かったです。イギリスの公立小学校に通わせていたのですが、とにかく言われたのが、どうせ渡辺さんは1年しかイギリスにいないのだから、何も買わなくていいです。学校のカバンとか、イギリスの簡単な製品みたいのがあるのですが、そういうのは、いらないから、何でもあるもので、地味なものだったらいいと言ってくれました。

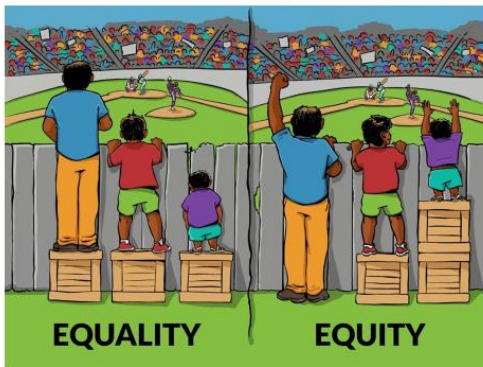
イギリスの小学校に通っているときは、1回も出費がない。日本だと、公立小学校でも、ドリル代だとか、修学旅行の積み立て費とか、色々な費用が集金されるのですが、それがいいのです。何をやるかということになると、みんなで集めてみんなで使う。

だから、バザーとかやるのですが、バザーをするときにも出せる方はたくさん出す。でも出さない人は何も出さなくていいのです。出せる人で出したい人はどんどん出す。

そういう風土になっていて、応分負担の地域ですね。1人1人は平等ではないのです。

平等

公平

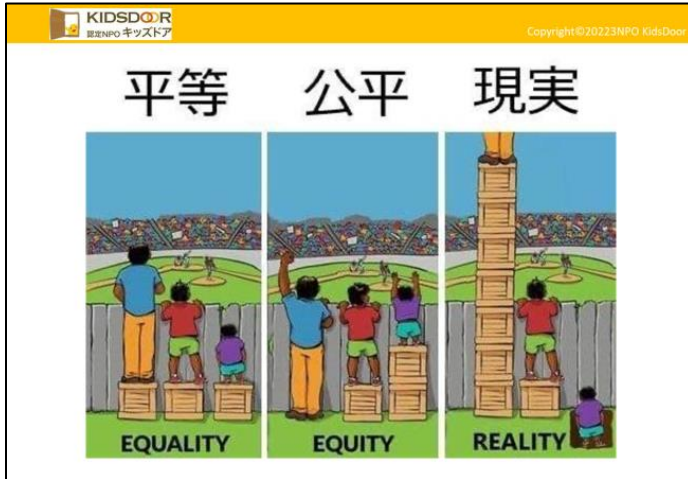


これ見たことある方はいらっしゃいますか。「平等」と「公平」ということを考えるときに、非常にシンボリックなイラストがよく掲載されるものですが、「平等」という絵の状態が、日本で起きていることです。

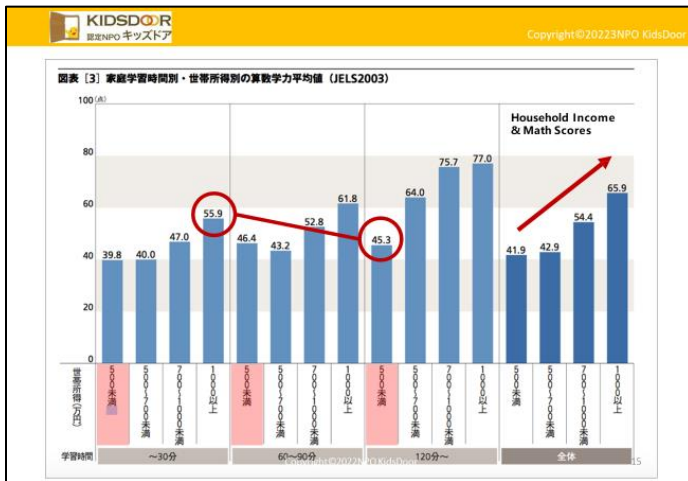
だから塀の向こうで、野球をやっていて、子どもたちが見たい。背が高い子もいれば、背の低い子もいて、みんな子どもは見えないからと言って木の箱を1人1個ずつあげるよって言ってあげると、背の高い子は箱がなくても見られるのですが、もっと高くなって、でも背の低い子は箱1個では見られないわけです。「公平」という考え方

や EQUITY という機会の「平等」ということを考えれば、背の高い子は箱がなくもいい、それを背の低い子にあげればみんな見られるじゃないかという、こういう考え方です。

本当にみんな同じに負担するのがいいのか、やはりその結果として、子どもたちがみんな幸せになったのかということだと思います。



現実に起こっていることは、バージョンアップをしているわけです。それでいくと「平等」と「公平」は、「現実」では、こういうことになっている。要は、良い子が良い状態にどんどんなっていて、厳しい環境の子の場合、より厳しくなってしまうという、現実はこうなのです。非常に皮肉な今の状況です。



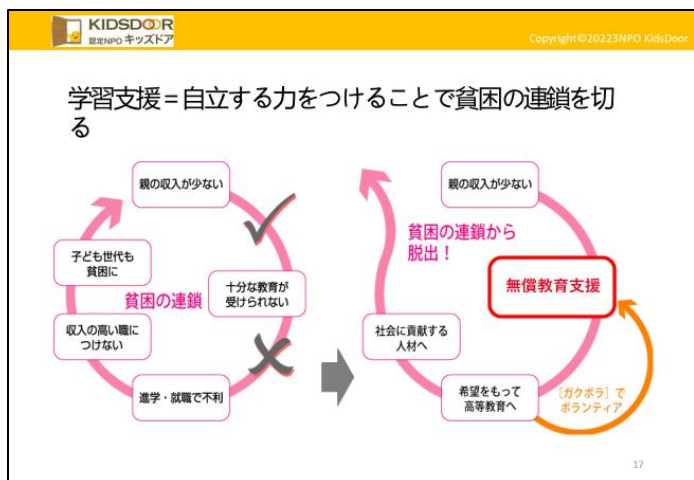
これは、実はデータでもあらわされています。この図表は、少し細かいですが、学力テストのグラフです。縦軸が点数、横が親の所得ですが、図表の左側が500万円未満で所得の低い方、次に、700万円未満、1,000万円未満、1000万円以上という4区分でなっています。もう一つの横軸が、学習時間で、1日30分以下しか勉強しないお子さん、次に、60分から90分の勉強するお子さん、120分、すなわち2時間以上勉強するお子さんということで、三つに分けました。

衝撃的だったのは、「30分未満しか勉強しない

年収1000万円以上のお子さん」の方は55.9点、「1日2時間以上勉強する年収500万円未満のお子さん」45.3点よりも、点数が10点以上高い。

要は、勉強して努力をすれば、今の環境から抜けられるという根底が崩れるわけです。学力格差があったときに、やはり、貧困家庭の方が勉強しないからとか、塾や予備校とか行けないからというわけではない要素がたくさんあるというふうに思っています。

それで、今、言われている体験格差とか、非認知能力とかやはり厳しい環境のお子さんたちが負ってしまうもので、それをどうやって地域が直していくのかということが重要だと思っています。

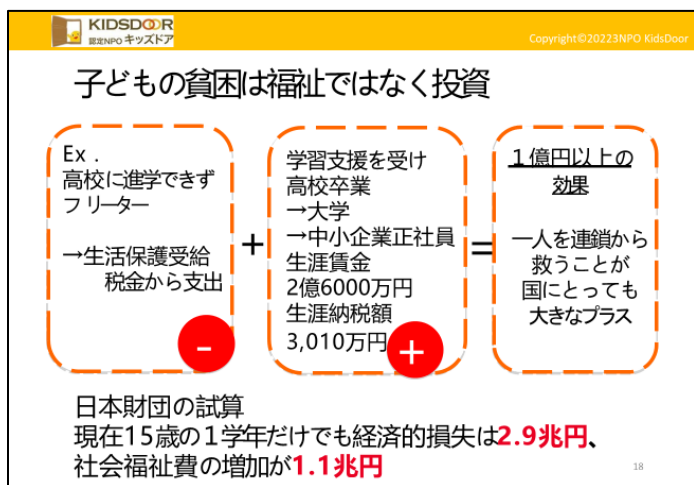


キッズドアの活動についてもお話したいと思います。今日本で起こっていることを、左側の図で示していますが、結局、親御さんの収入が少ないと、見ていただいたように、やはり十分な教育が受けられない。教育、狭い教育ではなくて、広い体験、そういったことが受けられないので、どうしても学力が低くなっていき進学や就職でも不利になってしまうわけです

そうすると収入の高い職にお子さんたちもつけないということで、子どもの世代も貧困になってしまう。結局、お家が、たまたま、あまり収入の高

くないお家に生まれてしまうと、どうしてもうまくいかずに貧困になってしまう。生活保護家庭になりやすいのかということですが、そこを何とかしたいと多分皆さん思っているのですが、私たちキッズドアも思っています。そういう家庭にお金は配れないが、何とか、勉強、教育、そういったことはできるのではないかと多くのボランティアの方と一緒に無料で教育支援をしています。希望を持って、社会に貢献する時代になってもらおうということで活動しています。

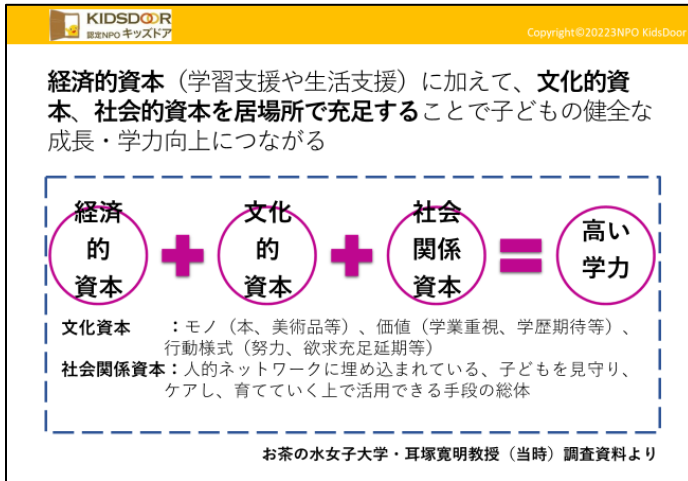
足掛けで、16年ぐらい活動していますが、厳しい環境のお子さんが自立をしていきます。だから、すごく、この活動は良いなと思っていますし、その子に良い、その家庭にとって良いということだけではありません。



内閣府の子どもの貧困対策の委員の時にも言っていたのですが、子どもの貧困対策は、福祉ではなく投資だということです。低所得者家庭のおうちに生まれたお子さんたちは、何の支援もないと、どうしても学力が低くなったり、なかなかうまく育たないという中で、その子たちが、高校入学したけど、すぐ中退したとか、不登校からずっと引きこもってしまうと、今度、その子たちをサポートするために、生活保護に入ってもらおうとか、お金が出ていくわけです。

その子たちに、適切な支援をして、勉強がわからなければ教えてあげるとか、ちょっと居場所に来て一緒に楽しく何かしないとか、そのような支援を受ければ、子どもがみんな先に進んでいくのです。キッズドアは、長く活動をしているので、大学に行きたいとか、実際、大学に進学する子も出てきて、その子は就職して稼いでくるわけです。地域の中で稼ぎ、GDPも上がるし、当然納税もしてくれるということで、学習支援は1人当たりでも1億円ぐらい効果あるのではないかというふうに言われています。

日本財団は、これまでも、貧困対策に取り組んでいますが、試算すると、日本全体でいえば、現在 15 歳の 1 学年だけとっても、子どもの貧困を放置しておく、経済的損失が 2.9 兆円、さらに社会福祉費の増加が 1.1 兆円、合計 4 兆円分ぐらい効果がある。子ども全体、日本全体でみると 43 兆円ぐらいあるということになります。ちゃんとやっていきましょう。本当に、子どもを、ちゃんと育てていくということがすごく大切です。



このスライドは、子どもの貧困対策を実施する私たちキッズドアが子どもたちに接するときに、非常に大事にしていることです。貧困というと、どうしても経済的問題、塾に行けないなら塾代を出せば良いとか、ご飯食べられないのならご飯を支援してあげれば良いとか、勉強するスペースがないのなら自習室を作れば良いというふうになっても、それでは、いけないのです。

それでは、なかなかうまくいかない。やはり重要なのは、文化的資本と社会関係資本という経済

と文化と社会関係、この三つが揃わないと、なかなか子どもの学力形成、自立に向かわない。文化的資本というのは体験活動とか、物に触れるとか、子どものときの本の読み聞かせとかですが、それが無いお子さんたちもいるわけです。

あとは勉強って大事だよって言うてもらうこと。テストで良い点を取ったと思って、一生懸命お家に持って帰ってお母さんに言ったら、そんなのいいから早く皿洗いなさいとか、弟の面倒見なさいとか言われた子もいる。

そんな中で、すごい点数とったねと誰かが言ってあげないと、勉強の努力ができなくなってしまう。ちゃんと学習時間に遅れないで来るのよと言ってもらうことがないと、お母さんは夏休み中も仕事行っていますから何時に起きてもわからないし、勉強もどのように進めているかもわからない。

日本の子どもの貧困は孤立していて、人的ネットワークに恵まれない。お母さんがずっと働いているわけですから、下手したらお母さんともそんなに話さない、大人の誰とも話さない、お母さんが地域活動も当然出られないわけですから学校の活動にも出られない、学校の人的ネットワークもないので、本当に下手したら、ちゃんと喋ったことのある大人は、お母さん 1 人。

だから、話すのは、お母さんと時々学校の先生で、以上終了みたいになってしまう可能性があるわけです。

そういう中でも社会が広がらないので、良い社会関係資本をつくることができない。キッズドアの学習会では、大学生とか社会人のボランティアが来てくださるのですが、この人が今日教えてくれる大学生のボランティアだよと言うと、大学生って本当にいるんだってことになるのです。大学に行ったことある人

や大学生に会ったことがない、自分の親もちろん大学行ってないという中で、大学生っているらしいけど、テレビのドラマで見る程度。

大学生は、どちらかというスポーツ選手と同じくらい遠かったのですが、何か会ってみたら、この人も大学生かと思って、なんか話してみても別にたいしたことないと思うわけです。本当は、たいしたことあるのですが。

大学生にフランクに接してもらって、その人が大学生だった、僕も大学行けるかなというふうに子どもは思います。

会社に勤めている人に会ったことがない子もたくさんいるわけです。そういう中で社会人ボランティアで会社勤めの人、学習支援の場所に来て、出張行ったから、今日はお土産がちょっとあるよと言って、チョコを配ってくれたりすると、仕事で旅行に行ける、そんな仕事があるのかと初めて理解するわけです。

自分は、旅行に行きたくてしょうがないけど、夏休みはどこにも行かない。でも仕事でどこかへ行けるというのがあるのだったら、ちょっと仕事してみようかということになります。

最初、学習会に行くときは、勉強したくない子ばかりです。なかなか勉強に向かなくて、親に言われたから、無理やりに来たみたいなお子も。この子に勉強させようと思い、将来何になりたいのか、夢は何なのかと聞いても、「はー」とか言う。働きたくない、大人は大変そうとか、でもそれを見ているのがずっと不安で、二つ三つも仕事をやっているお母さんの姿しか見ていないから、嫌でも仕事行かなくちゃいけないとなって、とても働くことに希望が持てないわけです。

働きたくない、このままがいい。他の人から見たら、あなたの今の状況だって大変なのだから、子どもにとって、そういうふうな社会しか見えていない中で、いやいや違う、社会は広い、いろんな可能性があるということを見せるのが社会関係資本です。大人のネットワークを見せるということが、本当に大事なわけです。



このスライドは、キッズドアが実施している学習会の写真ですが、左の上にあるような塾で先生が教えているスクール形式みたいな思い浮かべる方もいらっしゃると思うんですが、この形式は本当に少ないです。受験用のたまたまごく一部で、多くは、右の写真のような、横に寄り添って教える形式です。

子どもの学力レベルもいろいろあって、一番ダメな子は、中学生だけど九九ができないとか、2桁の筆算がちょっと危ういとか、別に、発達障害があるわけじゃないのです。

家でトレーニングしてないので、できないから、

座ることから入るといってお子さんたちもいるので、横に座って教えるのです。そうすると、ちゃんと学力形成がされていくわけです。



様々な体験活動を居場所内・外で実施することで、不足している文化的資本や社会関係資本を蓄積することを重視

企業の方に来ていただいて、ワークショップしたりするとかもあります。

料理も、借りている家が狭いですから、ミニキッチンみたいなところですから、親と料理を作ることはできないわけです。調理実習とかも、あんまりやれないという中で、一緒に料理作るとか、旅行に連れて行くとか、何でもいいのです。

例えば私たちキッズドアがよくやるのは大学見学です。大学といっても、子どもたちはせいぜい中学校のイメージしかなくて、勉強もできなくて、つまらなくて嫌なところだと思っている。

大学を見に行ったら、「学校」って言いながら、食堂があって、立派な図書館があって、とにかく若い人が楽しそうに歩いているということを見ると、どうやら好きな授業だけを取ることができるらしいとか、そういうのを聞くと、だったら大学へ行っても良いかなと思うみたいです。

そういうことをやりつつ、会社見学も連れて行っていただきますが、できれば一緒にご飯食べて頂いたりとか、社員食堂に連れて行ってもらって、そこで食べたりとかする、こんな綺麗なところがあって、働いている人がいると思うと、やっぱり仕事をするということは夢が広がるので、そういう体験はすごく大事ななと思っています。

どんな子どもでも

- 国立医学部に合格したBくん
- 「おばさん誰? 何しにきたの?」C君
- 不登校だったDちゃん

もう一つ重要なのは体験活動です。子どもは将来のために「勉強せよ」と言われても、将来が全然見えないわけだし、夢も希望もないので、勉強なんかしないわけです。

わからないからいいや、無理だからやらない、高校なんか行かなくていいということ言うのです。

そういうことではないと言っても、その子に「やる気」を戻すのは、本当にいろんなことをやって、自分はちょっとこれが好きだからやりたいとなるように、例えば、子どもが好きなことに関連した

どんなお子さんでも、伸びるということをお伝えしたくて、3人の例をお話します。

1人目は、国立大学医学部に合格したB君の話です。私たちキッズドアは、医療コースといって、医師になりたいとか看護師になりたいとか、理学療法士になりたいとか、そういうお子さんを集めた学習会を実施しています。

高校生が対象ですが、実は、貧困家庭のお子さんで医師になりたいという夢を持っている子どもも多いのです。

例えば、お父さんが病気で死んで、その病気を治せるような医師になりたいと思ってもその子たちは、

医学部は学費が高いから無理、大変だぞ、難しいと言われ続けてきたのです。

そこは、おかしいと思っていました。願書を出そうとしない。子どもが、その挑戦をして駄目だったらわかるけど、挑戦と夢を持つことは違うよと言っています。

医学部を目指したいと言ってくるのです。そういう子たちは、勉強は自分でしているからできるのです。

ただ、支えてくれる人がいないから不安、このお子さんもいろんな事情でやっぱり1人で住まざるを得ない浪人の1年目だったのですが、すごいときは、模試の物理で偏差値80でした。その子は、気分の落差が大きいので、次のとき、英語が全然駄目で、これは絶対不利。そのお子さんは最後には合格したのですが、何が良かったかというと、信頼関係が築けたことです。

キッズドアの学習会に来て、勉強を教えてあげるよ、ご飯食べさせるよって言っても、いいですよって、勉強は自分でできるのでと言って、全く顔を出しません。

オンラインでちょっと状況を伺いながら当日の試験代が必要だったら出してあげるよとか話していたのですが、いよいよ受験が始まって、国立しか無理だって言っていたけど、絶対にお医者さんになった方がいいからとスポンサー企業の方に仰っていただいて、とにかく私大を受けなさいということになり、私立の大学を受け始めました。

そうすると、1次試験の学力テストが受かるのですが、2次試験に行くと落ちるのです。

残念だったと話をすると、なんで落ちたのだろうと言ったら、そして、ようやく2校ぐらい落ちたときに、初めて、ちょっといいですかと相談があったのです。

やっぱり面接してスーツで行かないと駄目ですかということをしたのです。医学部は、面接が必ずあって、その子はもう高校も卒業していますから、自分はこれで行くのですと言って、トレーナーとパンツとスニーカー姿。他の人は、みんなスーツだと言います。

スーツぐらい、いくらでもあるからって相談してよ、借りてあげるから、スーツ借りて、靴と鞆はあるの、Yシャツは大丈夫なのと言って、色々声がけして、そういう意味で困っていることあったらみんなに言ってよ、みんなでやるからね、というふうにして、支えて、支えて、そうしたら、本当に受かり始めました。その子に必要なのは勉強じゃなくてやっぱり人を信頼することだとか、応援してくれる人と出会うことで、そういうことがあれば合格するのだなと思いました。

2番目は、C君の話です。発達が多分グレーゾーンで非常に乱暴なお子さんでした。学校でもトラブルも多い、生活環境もちょっと大変だったので、キッズドアの学習会に来ていました。担当スタッフから渡辺さん、ちょっと大変な子がいると言われて、どんなボランティアさんを付けても、みんな駄目、もうちょっと無理と。

見に行ったら、「おばさん誰？何しに来たの？」

「ババア、ウザいんだよ」と言って、私も少し驚いてしまったんですけど、そのお子さんは学力も低かったのです。

担当者が、もうこの子は無理だからやめてもらった方がいいのではないかと言ったけど、来たいというのをやめさせるわけにはいかないから、何とかしようという話になりました。

その担当者では無理だから、年齢の近い大学生を担当に変更したら、「何々さんは天使みたい～」と言って、それから来るようになったりしました。

それで、高校に入学したのですが、続かず中退しましたが、やはり、高校は卒業したいと言って、通信制の高校に入り直しました。レポートも手伝ったりして、足かけ6年ぐらい支援しました。その子は、今、何をしているかという、介護の仕事をしたいからと言って通信制高校を卒業して、介護の専門学校に通っています。

大変な子は、長くかかるけど、見ていくということがすごく重要だなと思っています。

3人目は、不登校のDさんの話です。女の子ですが、中学校のとき、ずっと不登校で高校は、どうするのかと聞いても、わからないと言っていました。

今の時代は、高校は入学していた方がいいよと言っていたのですが、都立高校の願書提出の前日に、居場所支援のスタッフに、実は、この高校へ行きたいと言ってきました。

そこから、スタッフが学校へ電話かけて、Dさんは高校に行きたいと言っているの、ぜひ願書出してくれとお願いしました。なんとか、願書を整えて、無事に合格しました。

定時制の高校に入ったのですが、中学校のときは不登校ですから、1年目はそんなに通えないし、単位の取り方とかもよくわからないので、もうとにかく1年目単位が0の結果に終わりました。

学校の先生から、うちの学校では1年のときに0単位で卒業した人は誰もいないから、あなたも退学した方が良くとか、違う高校に転校した方がいいと言われました。

その子から、どうしようかと相談を受けたのですが、絶対やめない方がいい、何とか卒業をする、どうにでもなるからと励ましました。

学校の先生にちゃんと話して、単位が取れなくても学校に行く練習をしたり、できることを図書館で勉強するとか、そうすれば、絶対、先生も応援してくれるからと言いました。

定時制は4年で卒業なのですが、4年目に最優秀生徒で卒業して、老舗のうなぎ屋に就職しました。今、元気に働いていて、「渡辺さん！私、就職しました」といって名刺交換しました。

どんなことでも支えてあげれば変わるので、そこをどうやるのかなということだと思っています。

KIDS DOOR
NPO KidsDoor
Copyright © 2023 NPO KidsDoor

私が関わった子どもの幸福度の調査

子どもの幸福度に影響を与える項目を明らかにするために重回帰分析を行った

- 幸福度にプラスの影響
 - ・人生について、保護者と一緒に考えて決めている
 - ・相談できる人数が多い方が幸福度が高い
- 幸福度に**マイナス**の影響
 - ・保護者は私の話を聞いて一緒に考えてくれる

私がかかわった、子どもの幸福度の調査があります。これは、幸福度と因果関係は、どういことなのかということですが、子どもの幸福度にプラスということは、人生について保護者と一緒に考えて決めているとか、相談できる人数が多いところが高い。

これは良くわかるのですが、幸福度がマイナスの影響で、保護者は私の話を聞いて一緒に考えてくれるというのが、マイナスの影響が出ている。

これは研究者の方も、どう考えればいいのかという物議が出るわけです。普通に考えたら、

保護者が話を聞いてくれれば嬉しいはずですよ。でもそうじゃないということです。

KIDS DOOR 認定NPO キッズドア Copyright © 20223NPO KidsDoor

貧困家庭では親といくら話しても解決の方法がない

- 野球用品は高くてなかなか買ってあげることができずお下りのグローブを直しながら使っています。ズボンには穴が空くと膝あてをして使っています。2年使っているため白だったズボンはだんだん色がくすんできています。練習着は1枚を使ったその日に洗い干して次の日に着るを繰り返しています。スポーツ用品などの支援は、難しいでしょうか？
- コンタクトレンズが買えない。部活を辞めてもらうか、悩んでいる。
- ユニフォームが買えないので、選手登録してもらえない

□経済的理由で部活動に影響が出た経験 (中学生または高校生がいる家庭)

回答	割合
ある	41%
ない	59%

(N=923)

要は、貧困家庭だと、いくら話しても解決策がないのです。ここにあるように、例えば、お母さんが私たちのアンケートに、うちの息子は野球部に入って、でも野球の道具を買ってあげられない。何とかしてくれないかって言うのですが、どうしようもできないわけです。きっと、部活で、ダンスとかなんでしょうね、コンタクトレンズが欲しいって言うのですが買ってあげられない。ユニフォームがないから選手登録してもらえず、部活をやめさせようかという話です。

KIDS DOOR 認定NPO キッズドア Copyright © 20223NPO KidsDoor

どんな子どもも親を大事に思っている 親子の支援が必要

困窮家庭の高校生は本当に苦しい

高校在学中の公的な奨学金や助成金、教育ローン等の利用経験 43%

回答	割合
利用したことがある	43%
利用したことはない	57%

- アルバイトはしなくていいのなら、せずに部活動や友達と遊ぶことを優先したかった
- 本当は高校生が経済的な理由でバイトしなくても良い世の中になってほしい。
- 下に弟、妹2人いる為経済的に大変になるから、進学は諦めた。
- お金がかかることはしたくないので高校に入ってからは友達と遊ぶのも避けたいので友達自作ってない

高校生になると、みんなアルバイトするわけですよ。高校生にアンケートをとってみたら、できればやりたくなかったということたくさんあるわけです。でもやっぱりやらざるを得ないことでアルバイトしているわけです。みんなそれぞれの親を大事に思っているから、しょうがない。それでも、結果として、何か親といろいろ話して相談しているけど、仕方がないから幸福度は下がるわけです。

KIDS DOOR 認定NPO キッズドア Copyright © 20223NPO KidsDoor

おせっかいをもう一度

経済的に厳しいことを誰かに相談しても解決策はほとんどないので、さらに精神的にもしんどくなります。安心して相談できる場所があるといいと思います。

相談窓口が充実しても、相談で腹は膨れない

困っている人がいたら、とにかくなんとかしようと思えばできる

地域はそれができる

私、おせっかいというか、結婚式のときに祝辞で、渡辺さんはサザエさんのようだって、3人から言われてそうなのかなと思っているのですが、自分でも、何かそういうところがあると思うのですが、おせっかいをもう一度。経済的に厳しいことを誰かに相談しても解決策が、ほとんどないので、さらに精神的に苦しくなる。安心して相談できる場所があるといいなと思います。

元々、今の日本の制度は不備で、本当に、なかなかその経済的なところを公的な支援でやろうと思ってもない。さきほど、部活のユニフォームがないという子にユニフォーム代を出す制度がないと言

いましたが、誰かのお下がりを見つけてくるとか何か違う方法があるのではないかと、そういうことをするということが大事ではないかと思っています。地域だったらそれができるのではないかと思っています。

KIDS DOOR
認定NPO キッズドア
Copyright © 2022 NPO KidsDoor

上野千鶴子 平成31年東京大学学部入学式 祝辞
東京大学大学院名誉教授・フェミニスト

あなたたちはがんばれば報われる、と思ってここまで来たはずですが、冒頭で不正入試に触れたとおり、**がんばってもそれが公正に報われない社会があなたたちを待っています。そしてがんばったら報われるとあなたが今思えることそのものが、あなたがたの努力の成果ではなく、環境のおかげだったことを忘れないようにしてください。**あなたたちが今日「がんばったら報われる」と思えるのは、これまであなたたちの周囲の環境が、あなたたちを励まし、背中押し、手を持って引きあげ、やりとげたことを評価してほめてくれたからこそです。世の中には、**がんばっても報われないひと、がんばろうにもがんばれないひと、がんばりすぎて心と体をこわしたひと... たちがいます。がんばる前から、「しょせんおまえなんか」「どうせわたしなんて」とがんばる意欲をくじかれるひとたちもいます。**

世界っていうのがあなたたちを待っている。頑張ったら、報われるとあなたが今思えるのは、あなた方の努力の成果ではなく、環境のおかげだったことを忘れないようにしてくださいということです。世の中には頑張っても報われない人、頑張ろうにも頑張れない人、頑張りがすぎて心と体を壊した人たちがいます。

頑張る前から、所詮お前なんかと言え、どうせ私なんてと意欲をくじかれる人もいます。

こういう人もいるわけですから、できる人はやっぱり何かそういう方たちを支援した方が良くはないかなと。さきほど、公平と平等の話がありましたけれど、やはりみんなが応分の負担をするのではなくて、やれる人はちょっとやりましょう、大変な人がいたらみんなまで支援しましょうという様にした方が良くはないかなと、思っています。



いました。

最後に、これは私が大好きな上野千鶴津子さんという社会学者で元東京大学教授の方が、平成31年の入学式の式辞で言った話ですが、ご存知のように、東京大学は、所得が高いおうちの方で、私立のそれこそ小中高一貫みたいな学校に行っているような方がたくさん入るところで、だからやはり、すごく学生の質が均質になってしまっています。

上野千鶴津子さんが言ったのは、あなたたちは頑張れば報われる、自分は頑張ら勉強したら東大に入ったと思っているかもしれないけれども、違う。頑張ってもそれが公平に報われない

最後に、子どもを育てるといのは、ちょっと前までは、学校と家庭でやっていた。ただ、今の状況ではどうしようもない無理ということは、もう皆さんおわかりだと思います。地域とか、NPOとか、企業とか、すべての社会資源が子どもたちのために、こども家庭庁は「こどもまんなか」と言っていますが、本当に子どものためにみんなが繋がって、やはりやれることをやると、おせっかいだねって言われるぐらいにやることが、幸せな地域になるのではないかなと、思っております。

私の話は以上です。長い間どうもありがとうございます。